

事業評価（案）

評価時点：事前評価

計画名称：社会資本総合整備計画事業

- ・高速道路 IC ランプの整備（防災・安全）

《建設局土木部道路計画課》

公共事業評価調書《事前評価・社会資本総合整備計画事業》

(1) 概要									
計画(事業)の名称		高速道路ICランプの整備 (防災・安全)							
計画(事業)の期間		令和8年度～令和12年度 (5年間)							
計画の目標		ICランプの整備により、東北自動車道とのアクセス強化、周辺道路の交通円滑化、緊急輸送道路のネットワーク強化を推進する。							
計画の成果目標 (定量的指標)		①浦和IC下り料金所までのアクセス時間が5分以内のエリアの面積を増やす							
		②浦和IC周辺道路における渋滞損失時間を削減する							
定量的指標 の定義及び 算定式	指標			定量的指標の現況値及び目標値					
				当初現況値		中間目標値		最終目標値	
				(令和8年度)		(令和10年度)		(令和12年度)	
		指標①	浦和IC(下り)へのアクセス時間が5分以内の面積の伸び率(%) = (整備完了時におけるアクセス時間が5分以内の面積 / 未整備時におけるアクセス時間が5分以内の面積 - 1) × 100	0%		—		14%	
		指標②	要素事業路線及び周辺路線(現況のアクセス道路)における渋滞損失時間の削減率(%) = ((未整備時の渋滞損失時間) - (整備完了時の渋滞損失時間)) / (未整備時の渋滞損失時間) × 100	0%		—		45%	
指標③									
全体事業費	合計(A+B+C)	1,880 (百万円)		A	1,880 (百万円)		B	0 (百万円)	
							C	0 (百万円)	

(様式1)

(2) 交付対象事業の詳細											
A 道路整備事業 (基幹事業)											
番号	要素となる事業名 (事業箇所)	事業種別	事業内容 (延長・面積等)	費用便益比 B/C	事業実施年度					全体事業費 (百万円)	備考
					R8	R9	R10	R11	R12		
1	一般国道463号越谷浦和バイパス (鶴巻ランプ)	道路整備	改築 (延長 : 0.4km)	—	■	■	■	■	■	1,880	
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
合計 (1事業)										1,880	
B 関連社会資本整備事業											
1											
2											
3											
合計 (0事業)											
C 効果促進事業											
1											
2											
3											
合計 (0事業)											

担当部局	建設局土木部道路計画課 TEL : 048-829-1499 FAX : 048-829-1988 E-mail : doro-keikaku@city.saitama.lg.jp
-------------	---

説 明 資 料

さいたま市
公共事業評価審議会
(令和7年度)

社会資本総合整備計画 事前評価説明資料

高速道路ICランプの整備(防災・安全)

令和8年1月26日

建設局 土木部 道路計画課

1. 交付金制度の概要	2
2. 整備計画の概要	3
3. アウトカム指標の設定について	..	7
4. 目標値の設定について	9

- 社会資本整備総合交付金は、国土交通省所管の地方公共団体向け個別補助金を一つの交付金に原則一括し、地方公共団体にとって自由度が高く、創意工夫を生かせる総合的な交付金として平成22年度に創設。
- 防災・安全交付金は、地域住民の命と暮らしを守る総合的な老朽化対策や、事前防災・減災対策の取組み、地域における総合的な生活空間の安全確保の取組みを集中的に支援するため、平成24年度補正予算において創設。

交付金の仕組み・特徴

社会資本総合交付金 防災・安全交付金

- ・ 地域が抱える政策課題を自ら抽出し、定量的な指標による目標を設定し、おおむね3～5年の整備計画を作成
- ・ 計画へ配分された国費の範囲内で、自由に計画内の各事業(要素事業)へ国費を充当可能
- ・ 地方公共団体が、自ら整備計画の事前評価・事後評価を実施し、HP等により公表

社会資本整備総合交付金

自由度が高く、創意工夫を生かせる総合的な交付金

防災・安全交付金

地域住民の命と暮らしを守る総合的な老朽化対策や、事前防災・減災対策の取組み、地域における総合的な生活空間の安全確保の取組みを集中的に支援

本審議会に諮る
整備計画

2. 整備計画の概要

3

- さいたま市の道路整備は、上位計画を踏まえた「さいたま市道路整備計画」に基づいて推進。
- 道路整備計画内の1事業について、東北自動車道とのアクセス強化、周辺道路の交通円滑化、緊急輸送道路のネットワーク強化を推進することを目的とした整備計画に位置付け。

計画の名称	高速道路ICランプの整備(防災・安全)
計画の期間	令和8年度 ~ 令和12年度 (5年間)
計画の目標	ICランプの整備により、東北自動車道とのアクセス強化、周辺道路の交通円滑化、緊急輸送道路のネットワーク強化を推進する。
全体事業費	1,880百万円
計画の成果目標 (定量的指標)	<ol style="list-style-type: none">1. 浦和IC下り料金所までのアクセス時間が5分以内のエリアの面積を増やす 本計画に基づき、浦和ICまでのアクセス時間が5分以内の面積を14%拡大させる。2. 浦和IC周辺道路における渋滞損失時間を削減する 本計画に基づき、浦和IC周辺道路(ランプ部及び現況ICアクセス道路)の渋滞損失時間を45%削減する。

2. 整備計画の概要

■ 次期社会資本総合整備計画における要素事業

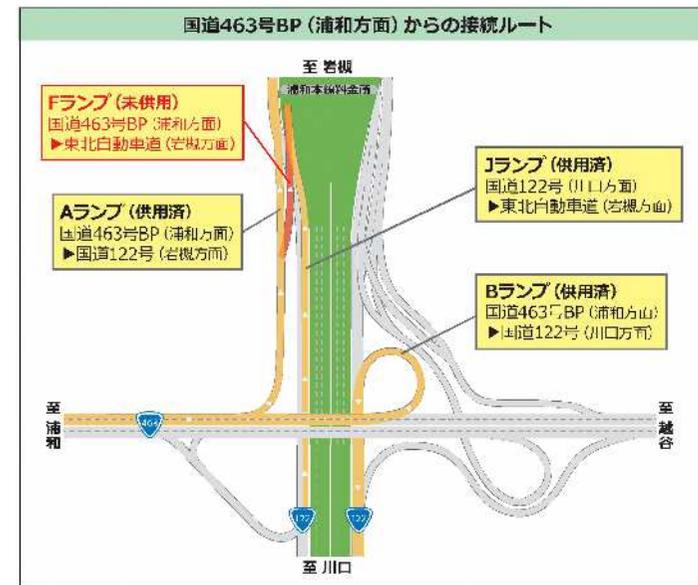
➤ 社会資本総合整備計画における要素事業は以下の1事業とする。

NO.	道路名	事業名称(工区)	区間	延長(km)	事業内容	事業期間					備考
						R8	R9	R10	R11	R12	
①	国道463号	一般国道463号越谷浦和バイパス(鶴巻ランプ)	緑区大字大門地内	0.4	改築	■	■	■	■	■	Fランプの新設に伴い、供用済のAランプ及びJランプについても改良を実施

<要素事業位置図>



<事業概略図>



2. 整備計画の概要

■ 事業概要

事業名：一般国道463号越谷浦和バイパス(鶴巻ランプ) ※Fランプ改築+A・Jランプ改良

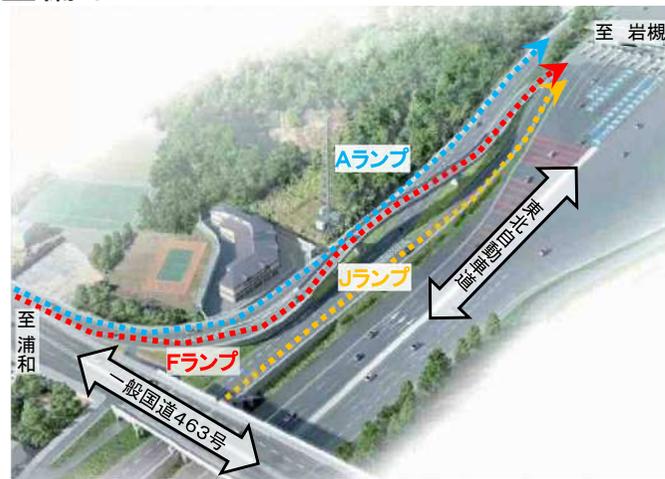
事業期間：令和4年度～令和12年度 ※計画期間：令和8年度～令和12年度

総事業費：約 3,460 (百万円) ※計画期間事業費：約 1,880 (百万円)

< 整備前の道路状況 >



< 整備イメージ >



< 事業状況 >



< 代表的な橋梁規格及び横断構成 >

Fランプ	
橋長	155m
計画幅員	5.5m
上部形式	鋼3径間連続箱桁橋
下部形式	逆T式橋台、張出式橋脚



2. 整備計画の概要

■ 要素事業の位置図及び事業概略図



■ 計画の目標

ICランプの整備により、東北自動車道とのアクセス強化、周辺道路の交通円滑化、緊急輸送道路のネットワーク強化を推進する。

■ 指標設定の考え方

① 東北自動車道(下り)へのアクセス性向上による防災機能の強化

・浦和ICへのアクセス性

➡要素事業である鶴巻ランプの整備あり・なしでそれぞれ浦和ICへのアクセス時間が5分以内の面積(km²)を算出

浦和ICへのアクセス時間が5分以内の面積の伸び率(%)

② 浦和IC周辺道路の交通円滑化

・要素事業の供用により、周辺道路の交通転換が図られ、交通円滑化に寄与

➡要素事業である鶴巻ランプの整備あり・なしで、要素事業路線及び交通転換が予想される周辺道路の渋滞損失時間を算出

要素事業路線及び周辺路線(現況のアクセス道路)における
渋滞損失時間の削減率(%)

■ 評価項目及びアウトカム指標の設定

① 東北自動車道(下り)へのアクセス性向上による防災機能の強化

■ 浦和ICへのアクセス時間が5分以下の面積の伸び率(%)

$$= (\text{整備完了時におけるアクセス時間が5分以内の面積} / \text{未整備時におけるアクセス時間が5分以内の面積} - 1) \times 100$$

【理由】: 要素事業の整備により、国道463号(浦和駅方面)から東北自動車道(下り)へ直接アクセス可能となることで移動時間が短縮し、アクセス性の向上が期待できる。

② 浦和IC周辺道路の交通円滑化

■ 要素事業路線及び周辺路線(現況のアクセス道路)における渋滞損失時間の削減率(%)

$$= ((\text{未整備時の渋滞損失時間}) - (\text{整備完了時の渋滞損失時間})) / (\text{未整備時の渋滞損失時間}) \times 100$$

【理由】: 要素事業の整備により、鶴巻ランプ(A・F)へ交通が転換し、現況のアクセス道路を走行する交通量が減少することで、旅行速度が改善・渋滞損失時間が削減し、浦和IC周辺道路における交通の円滑化が期待できる。

指標1：東北自動車道(下り)へのアクセス性向上による防災機能の強化

<p>指標</p>	<p>浦和IC(下り)へのアクセス時間が5分以内の面積の伸び率(%)</p>		
<p>指標設定の考え方</p>	<p>要素事業の整備により、国道463号(浦和駅方面)から東北自動車道(下り)へ直接アクセス可能となることで移動時間が短縮 →周辺地域における浦和IC(下り)へのアクセス性が向上</p>		
<p>目標値 伸び率(%)</p>	<p>R8 現況値</p>	<p>R10 中間値</p>	<p>R12 目標値</p>
	<p>0%</p>	<p>—</p>	<p>14%</p>
<p>目標値設定の考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆現況(R8)及び事後評価時(R12)の交通量配分より得られる平均速度を用いてGISネットワーク解析を実施 ◆現浦和ICのランプ部と本線の合流地点を目的地とし、アクセス時間が5分以内となる面積を算出 ◆上記により整備前(9.3km²)と整備後(10.6km²)の結果から伸び率を算出し、目標値を14%と設定 		

指標2：浦和IC周辺道路の交通円滑化

<p>指標</p>	<p>要素事業路線及び周辺路線（現況のアクセス道路）における渋滞損失時間の削減率（%）</p>		
<p>指標設定の考え方</p>	<p>要素事業の整備により、鶴巻ランプ（A・F）へ交通が転換し、現況のアクセス道路を走行する交通量が減少することで、旅行速度が改善・渋滞損失時間が削減 ⇒浦和IC周辺道路における混雑が緩和</p>		
<p>目標値削減率（%）</p>	<p>R8 現況値</p>	<p>R10 中間値</p>	<p>R12 目標値</p>
	<p>0%</p>	<p>—</p>	<p>45%</p>
<p>目標値設定の考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆現況(R8)及び事後評価時(R12)の交通量配分より得られる平均速度と交通量を用いて、リンク別の渋滞損失時間を算出 ◆要素事業路線及び要素事業の整備によって交通転換が見込まれる路線（現況のアクセス道路）の渋滞損失時間を算出 ◆上記により整備前（102,973人時間/年）と整備後（57,117人時間/年）の結果から削減率を算出し、目標値を45%と設定 		

